

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫

両団体理事長 半 田 晴 久

新エネルギー委員長 中 島 稔

両団体専務理事 清 原 淳 平

新エネルギー委員会のお知らせ (第331回)

日 時 平成31年4月3日(水) 午後1時半～4時

場 所 衆議院第一議員会館 地下1階 第2会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。また、会議開始後にお越しの方は、受付に「第2会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議 題 1、最近の再生・新エネルギーについて思う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、『新エネルギー関連ニュースNO.184』

解説 中島稔新エネルギー委員長

3、基礎科学からアプローチする次世代エネルギーの開発

解説 八島正知東京工業大学理学院教授

報 告 去る3月6日開催の第331回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、中島委員長より、「最近の再生・新エネルギーについて思う」と題して開会挨拶がありました。洋上風力発電普及法が成立し、国が指定した促進地域では、最大30年発電許可が下りるようになった。新規参入業者も増えるだろうが、日本メーカーは風力発電から次々撤退し、残るは三菱とデンマークの合弁会社のみとなっている。また、1月31日の日本海事新聞に、JOGMECが新しい3次元探査船を導入し、4月にも稼働させる予定のようだ。従来の「資源」が運航から10年経過し、より高性能の3次元探査船の導入が開始されることによ

る日本の海底資源確保に期待したい。

次に、清原淳平専務理事より、本日の講師に予定していた石谷治東京工業大学教授の御母上が急病との連絡が昨日あり、やむを得ないこととして石谷先生のレクチュアは延期し、急遽技術士会の重鎮として長年活躍されている長友正治委員にレクチュアをお願いした旨の経緯説明がありました。次に、長友委員より、「産業設備コンサルタント40余年回顧録」と題して解説をいただきました。私の本籍は宮崎県、大正10年満洲の営口で生まれ、大連で育ち、新京工業大学の機械工学科を卒業後、満洲飛行機製造(株)に勤務。特にキ98型は、アメリカの戦闘機より高性能だったが、終戦末期のため物資がなかった。復員後、以下の産業設備コンサル業に携わった。①石炭や鉱物資源の機銃設備・搬送設備、②理研で研究したしなやかに曲がる無機EL。発光には成功したが、寿命が短く、実用化に至らず。③①の技術を応用した階段登降走自在運搬車、モータードラム。後者で発明協会の全国発明賞を受賞。④鉄鉱石・ボーキサイトの運搬、積載ライン。⑤キャタピラーの量産ライン。⑥高炉頂向けカプセル式コンベヤ。環境保全条例により、ゴミを開放輸送できなくなったため、ゴミをパイプ内で圧送する設備。⑦ジャンボジェット機のメッキ加工ライン。省力化・生産性の向上に成功。⑧機内食食器の洗浄作業の合理化、⑨建設埋立式製鉄の浮体式空港。ヘドロの海だった関西空港は人工島を作っても沈下してしまう。そこで天変地異に強く、沈下の心配がないメガフロートを提案したが、沈下に合わせて水圧ジャッキで持ち上げる方式が採用された。(そのため、去年の台風で被害が出た)⑩航空機主輪ブレーキ交換の省力化、等々多岐にわたる分野でのご活躍であった。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.183』の解説がありました。今回は、○長寿命な燃料電池につながる電解質の開発。従来の電解質より低湿度で動作するため、劣化を抑えられる。水素イオンを通す微粒子を原料に使った。○電池の部材を金属から樹脂に変えて発火しないようにした全樹脂電池の量産が再来年より始まる。○安価で触媒の劣化を防ぎ水素を製造する技術。触媒の白金を付着させた球状活性炭を使い、省エネかつ触媒の劣化を防ぐ。○赤外域の太陽光で水素製造、3.8%と世界最高率を達成。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円にご協力を。

次回、4月3日(水)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587